

## 立教大ボクシング部・井崎総監督に聞く／BOX

2017.2.17 10:38

長い間、後楽園ホールのリングから遠ざかっていた立教大学ボクシング部は、1992年に関東大学ボクシング2部リーグから3部リーグに転落、2006年には7部リーグまで転落した。ツタの絡まる池袋キャンパスから激しいボクシング部を連想するのは難しいが、1923年に創部、1965年には関東大学1部リーグで優勝した古豪だ。

今年、第70回目を迎える関東大学ボクシングリーグ戦の節目とともに、立大が後楽園ホールで戦う2部リーグに復帰したのは、創立者ウィリアムズ主教の導きか。立大ボクシング部を指揮する井崎洋志総監督からリーグ戦を前に話を聞いた。(岩崎仁)

### ―今年目標について

久々の後楽園ホール復帰。全試合がチャレンジャー。対戦する全5校に食らいついていき、一つでも多くの勝利を積み重ね、2部リーグ残留を目指したい。

### ―チームの雰囲気や部員の特徴、普段の練習について

部員は新2年生以上の男子選手9名、女子選手1名、女子マネージャー2名。2部リーグ校の中でも最少人数と思われるものの、コミュニケーションが取りやすく、団結力はある。12名の部員のうち、3名が広島県、2名が九州出身。かつては関係校である立教新座高校や立教池袋高校出身者がいたが、近年は入部者がいない。唯一の新四年生、林田瑞輝主将は初めての2部リーグでプレッシャーも大きいと思われるが、泣きごとを言わずに、こころのリーダーシップを発揮してほしい。

練習日は火曜日から日曜日。平日の練習時間は多くの選手が揃う時間帯に曜日ごと、フレキシブルに変えている。大学のキャンパスが複数あり、学業優先のため全部員が揃う時間はあまりない。真面目な学生が多く、全員がしっかり授業にも出席している。練習後にアルバイトをしている選手もいる。授業もアルバイトもボクシングが強くなるヒントは多く、社会で通用する人間になるため、大学時代しかできない経験を数多くしてもらいたい。

### ―高校生のスカウトについて

全国大会ベスト16以上かつ評定平均3.5以上で受験可能な「アスリート選抜入試」があるものの、合格が約束された制度ではないため、OB会長が中心となり全国の高校に受験のお願いと、選考に必要な小論文と面接のサポートをしている。

### ―コーチ陣の体制について

フルタイムの指導者を置けないため、土日を中心にした体制。2部リーグ3位時の主将、橋口勝彦監督ほか、大学からボクシングを始め実績を積んだOBや高校時代に実績を積んだOB、計8名が中心に指導し、未経験者、経験者双方の気持ちができるように心がけている。

### ―学生時代にボクシングに取り組む学生に対して

社会に出れば、ボクシングを経験していた人は少数。それは他人がなかなか出来ない経験をしているということ。ボクシングは減量に耐え、恐怖と戦い、痛みを我慢しながら、ゴングがなるまでファイトし続けなければならないスポーツ。そ

のスポーツを同じ目標を持った仲間とともに励まし、全うするのが大学ボクシング。私の経験から、社会に出て役に立つことが山ほどある。だからこそ、逃げずに四年間全力でやり通して欲しい。

#### ―監督にとっての関東大学ボクシングリーグ戦とは

私が大学一年生の時、立大は関東大学4部リーグ所属。四年生時に3部優勝、2部昇格を果たした。翌年、後輩たちは2部リーグ3位。この間、大学入学以前からボクシングを始めた選手は誰一人いなかった。一人一人の力が劣っていても、チーム一丸となって戦えば、強豪校にも勝利する。それが、関東大学ボクシングリーグ戦だ。

#### ■立教大学ボクシング部ホームページ

#### 立教大学ボクシング部

1923年創部。1965年に関東大学ボクシング1部リーグ優勝。OBに1964年東京五輪ライトウェルター級代表米倉宝二、プロボクシング日本ジュニアライト級チャンピオン林守など。

#### 井崎洋志監督

いざき ひろし 1968年11月1日生まれ。立教高校(現立教新座高校)出身。高校時代はラグビー部。大学からボクシングを始め、1990年全日本選手権フライ級第3位。